



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年7月29日

上場会社名 株式会社 バッファロー
 コード番号 3352 URL <https://www.buffalo.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂本 裕二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 日下部 直喜
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 048-227-8860

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,466	8.6	90	130.0	107	51.4	65	39.8
2022年3月期第1四半期	2,271	12.2	39	71.9	70	137.3	46	182.7

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 65百万円 (40.0%) 2022年3月期第1四半期 46百万円 (180.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	28.64	
2022年3月期第1四半期	20.48	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	7,886	5,704	72.3
2022年3月期	7,761	5,685	73.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 5,704百万円 2022年3月期 5,685百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		20.00		20.00	40.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		20.00		20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,300	3.0	508	15.0	540	5.9	364	3.5	160.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	2,275,374 株	2022年3月期	2,275,374 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	2,444 株	2022年3月期	2,156 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	2,273,146 株	2022年3月期1Q	2,273,218 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然続く状況下ながらも、ワクチン接種の普及を背景に経済活動の制限緩和が進みました。国内の個人消費につきましては、経済環境の正常化による景気を持ち直しが期待される一方で、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰と急激な円安の進行から物価の上昇傾向が鮮明となっており、購買力の低下による消費マインドの冷え込みが懸念材料となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、変容するライフスタイルへの対応を見据えた業容改革を推し進め、生活インフラである車関連事業及び外食事業を通じ地域の暮らしに寄与すべく営業活動を行ってまいりました。

当社グループのセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

<オートボックス事業>

当第1四半期連結会計期間末におけるオートボックス事業の店舗数は、15店舗であります。当第1四半期連結累計期間中における店舗の新設及び廃止はございません。

オートボックス事業が属する国内カー用品市場の環境につきましては、自動車メーカー各社が部品供給の遅れにより減産を行う等、国内の新車販売台数の低迷が続く一方で、3年ぶりに行動規制のない中でのゴールデンウィークとなったことから、ロングドライブに関連した消耗品の需要が回復基調で推移しました。一方、カーナビゲーション・ドライブレコーダーは半導体の供給不足から商品供給が不安定なこともあり、市場は活力を欠く状態にあります。

このような環境の中で当社グループは、2019年5月に公表した「2019 中期経営計画」のもと「クルマのことならオートボックス」の実践を通じた地域ナンバーワンの店づくりを目指し、顧客満足度向上のための接客・接客力の強化、技術力を備えた専門スタッフの育成に取り組んでおります。販売施策といたしましては、中期的な重点分野と位置付けるボディコーティングやヘッドライトコーティングメニュー等、車の美観向上に関するピットサービスメニューにつき継続的な拡販に努めており、堅調に売上が伸長しております。タイヤ販売につきましては、販売数量底上げを重視し低価格帯商品を充実させた売場づくりとともに、値上げ前の駆け込み需要を受け積極的な販促を行った結果、前年を上回る実績となりました。また、車販売部門につきましても、新車販売は自動車メーカーからの納車の遅れ等から停滞することとなりましたが、活性化する中古車市場を背景に、買取り・オークション販売が好調に推移し、中古車販売台数が大幅に増加しました。

これらの取り組みにより、オートボックス事業の売上高は2,300,098千円（前年同期比5.9%増）となりました。

<飲食事業>

当社グループは、2019年7月に設立した子会社「株式会社パッファローフードサービス」において、㈱焼肉ライクがチェーン展開する『焼肉ライク』のフランチャイジーとして飲食事業を運営しております。前連結会計年度までに開設した5店舗とともに、2022年4月7日に広島県内で同チェーン初出店となる「焼肉ライク ekie広島店」、2022年4月21日に「焼肉ライク 南池袋店」を新たにオープンし、当第1四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は7店舗となりました。

『焼肉ライク』は、「Tasty! Quick! Value!」をキャッチフレーズに、1人1台の無煙ロースターを導入し、お客様が好きな部位を好きなだけ楽しむことができる、個人客をメインターゲットにした新感覚の“焼肉ファストフード店”であります。

飲食事業が属する外食産業におきましては、自治体の要請により新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する基本的な防止策を維持しつつも、段階的な制限緩和が図られている状況にあります。しかしながら消費者の外食控え傾向は根強く、また、物価の高騰による節約志向の強まりから、客数の本格的な回復には時間がかかることが予想されます。

当社グループといたしましては、お客様・取引先様・従業員の安全と健康を第一義とした店舗運営を徹底し、新規店舗の周辺地域への認知度向上を図るとともに、既存店舗のサービス充実にも努めてまいりました。

これらの取り組みにより、飲食事業の売上高は店舗数の増加等を反映し166,223千円（前年同期比66.7%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,466,321千円（前年同期比8.6%増）、営業利益90,111千円（同130.0%増）、経常利益107,097千円（同51.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益65,101千円（同39.8%増）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セグメント	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
オートボックス事業	2,171,600	95.6	2,300,098	93.3	9,574,396	95.7
飲食事業	99,710	4.4	166,223	6.7	426,469	4.3
合計	2,271,310	100.0	2,466,321	100.0	10,000,866	100.0

各品目別の売上高及び構成比は次のとおりであります。

品目	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
ピット・サービス工賃	708,086	31.2	750,747	30.4	2,884,706	28.8
タイヤ・ホイール	426,479	18.8	511,264	20.7	2,370,894	23.7
アクセサリ・メンテナンス用品	427,672	18.8	399,694	16.2	1,825,166	18.3
カーエレクトロニクス	271,762	12.0	246,600	10.0	985,559	9.9
オイル・バッテリー	174,652	7.7	191,869	7.8	801,927	8.0
車販売	142,979	6.3	181,445	7.4	627,376	6.3
飲食	99,710	4.4	166,223	6.7	426,469	4.3
その他	19,967	0.9	18,475	0.7	78,766	0.8
合計	2,271,310	100.0	2,466,321	100.0	10,000,866	100.0

(注) 1. 「飲食」につきましては、2021年4月に「焼肉ライク 川越クレアモール店」を開設し、当第1四半期連結累計期間より通期での営業を行っております。また、2022年4月に「焼肉ライク ekie広島店」、「焼肉ライク 南池袋店」を新たにオープンし営業を開始しております。

2. 各品目の主な内容は、次のとおりであります。

品目	主な内容
ピット・サービス工賃	オイル交換、タイヤ交換、各種用品取付、板金・塗装、車検・整備、ボディコーティング、ヘッドライトコーティング、車内クリーニング
タイヤ・ホイール	夏用タイヤ、冬用タイヤ、アルミ・スチールホイール
アクセサリ・メンテナンス用品	チャイルドシート、キャリア、チェーン、車内アクセサリ、ドレスアップ用品（ステアリング、シート、ランプ等）、チェーンナップ用品（エアロパーツ、マフラー、サスペンション等）、省燃費用品等
カーエレクトロニクス	カーナビゲーション、カーTV、ドライブレコーダー、DVD・CD・MDプレーヤー、スピーカー、アンプ、接続具等
オイル・バッテリー	国産・輸入エンジンオイル、国産車用・外車用バッテリー
車販売	新車及び中古自動車
飲食	店舗における飲食サービス

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は4,656,966千円となり、前連結会計年度末に比べ74,074千円（前連結会計年度末比1.6%）増加しました。これは主に流動資産のその他に含まれる未収入金75,138千円の減少に対して、商品86,674千円、現金及び預金68,936千円が増加したことによるものであります。固定資産は3,229,436千円となり、前連結会計年度末に比べ50,436千円（同1.6%）増加しました。これは主に有形固定資産の増加55,365千円によるものであります。

この結果、総資産は7,886,402千円となり、前連結会計年度末に比べ124,510千円（同1.6%）増加しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,397,044千円となり、前連結会計年度末に比べ64,020千円（前連結会計年度末比4.8%）増加しました。これは主に未払法人税等52,215千円及び流動負債のその他に含まれる前受金39,481千円の減少に対して、買掛金89,395千円及び賞与引当金37,202千円が増加したことによるものであります。固定負債は784,509千円となり、前連結会計年度末に比べ40,797千円（同5.5%）増加しました。これは主に長期借入金の減少8,120千円に対し、固定負債のその他に含まれる長期未払金43,766千円が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は2,181,553千円となり、前連結会計年度末に比べ104,818千円（同5.0%）増加しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は5,704,849千円となり、前連結会計年度末に比べ19,692千円（前連結会計年度末比0.3%）増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払の結果として利益剰余金が19,636千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は72.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は概ね計画通り推移しており、現時点での2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月9日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,414,299	2,483,235
売掛金	543,974	554,087
商品	1,120,708	1,207,382
その他	503,909	412,260
流動資産合計	4,582,891	4,656,966
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,143,877	2,232,626
減価償却累計額	△1,219,377	△1,239,458
建物及び構築物(純額)	924,499	993,167
土地	686,694	686,694
その他	817,500	783,116
減価償却累計額	△485,529	△464,448
その他(純額)	331,970	318,667
有形固定資産合計	1,943,165	1,998,530
無形固定資産	15,250	14,516
投資その他の資産		
差入保証金	709,708	701,481
その他	510,876	514,907
投資その他の資産合計	1,220,584	1,216,388
固定資産合計	3,179,000	3,229,436
資産合計	7,761,891	7,886,402
負債の部		
流動負債		
買掛金	504,092	593,487
1年内返済予定の長期借入金	29,520	30,260
未払法人税等	108,142	55,927
賞与引当金	133,354	170,556
その他	557,913	546,812
流動負債合計	1,333,023	1,397,044
固定負債		
長期借入金	8,120	—
退職給付に係る負債	537,844	541,086
資産除去債務	93,070	95,829
その他	104,676	147,593
固定負債合計	743,711	784,509
負債合計	2,076,734	2,181,553
純資産の部		
株主資本		
資本金	614,661	614,661
資本剰余金	589,245	589,245
利益剰余金	4,481,552	4,501,189
自己株式	△117	△117
株主資本合計	5,685,342	5,704,979
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△185	△130
その他の包括利益累計額合計	△185	△130
純資産合計	5,685,156	5,704,849
負債純資産合計	7,761,891	7,886,402

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	2,271,310	2,466,321
売上原価	1,171,375	1,236,146
売上総利益	1,099,935	1,230,175
販売費及び一般管理費	1,060,752	1,140,063
営業利益	39,182	90,111
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,542	2,532
受取手数料	1,898	1,904
受取協賛金等	19,499	11,750
その他	8,498	3,666
営業外収益合計	32,438	19,852
営業外費用		
支払利息	552	2,152
その他	348	714
営業外費用合計	900	2,866
経常利益	70,720	107,097
税金等調整前四半期純利益	70,720	107,097
法人税、住民税及び事業税	14,098	49,091
法人税等調整額	10,064	△7,095
法人税等合計	24,163	41,996
四半期純利益	46,557	65,101
親会社株主に帰属する四半期純利益	46,557	65,101

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	46,557	65,101
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△22	55
その他の包括利益合計	△22	55
四半期包括利益	46,534	65,156
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	46,534	65,156
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額 (注) 2
	オートバックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,171,600	99,710	2,271,310	—	2,271,310
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,171,600	99,710	2,271,310	—	2,271,310
セグメント利益又は損失(△)	136,707	△19,249	117,457	△78,274	39,182

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△78,274千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額 (注) 2
	オートバックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,300,098	166,223	2,466,321	—	2,466,321
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,300,098	166,223	2,466,321	—	2,466,321
セグメント利益又は損失(△)	192,369	△22,504	169,864	△79,753	90,111

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△79,753千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。